大阪市老人クラブ徽章

全国３大運動
健康・友愛・奉仕をめざして
市内全会員に配布

月刊大老連

平成28年　５月号
第694号　毎月１日発行
平成28年（2016年）５月１日
定価30円（送料別）　年間購読料1,100円（送料共）
購読お申し込みは、月刊大老連
編集室にご連絡ください。

昭和33年９月19日第三種郵便物認可
〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター３階
発行所　一般社団法人
大阪市老人クラブ連合会
電　話　事務局 06(4304)8555
編集室 06(4304)8556
ＦＡＸ　06(4304)8557

大老連のシンボル「陽光桜」見事に咲き誇る

北区・扇町公園

今年も会員のご健康とご長寿を祈る

大老連のシンボルである３本の「陽光桜」が、今年も会員の皆さんのご健康とご長寿を祈って、見事に咲き誇りました。この陽光桜は、大老連結成50周年記念事業として、平成19年10月に大阪市北区の扇町公園内に植樹されたものです。皆さん、ぜひ一度出かけてみてください。（３月22日撮影）

平成28年度大阪市当初予算

大阪市　３兆６９７３億円

健康局と福祉局　総額５９１６億円

大阪市の平成28年度の当初予算は、総額3兆6973億円（一般会計1兆6509億円）で、前年度に比べて2985億円の減額（一般会計757億円の減額）となりました。一般会計当初予算のうち、健康局と福祉局の当初予算は、総額5916億円で、前年度に比べて98億円の増額となり、大阪市当初予算の35・8%を占めています。

大阪市福祉局高齢者施策部いきがい課関連の当初予算の主な事業名は、次のとおりです。

▽老人福祉センター運営費
▽地域高齢者活動拠点施設（老人憩の家）運営費
▽老人クラブ事業
▽敬老優待乗車証交付事業
▽高齢者入浴利用料割引事業
▽高齢者福祉月間事業
▽全国健康福祉祭選手団派遣事業
▽高年齢者就業機会確保事業

平成28年度　大阪市の当初予算編成方針

本格的な少子高齢・人口減少社会が到来し、飛躍的な経済成長が見込めない中、多様化する市民ニーズに速やかに応えていくためには、安定した財政基盤を構築していく必要があります。

そこで、予算の編成にあたっては、市民感覚をもって行財政改革を徹底的に行い、補てん財源に依存することなく収入の範囲内で予算を組むことを原則とするなど、将来世代に負担を先送りすることのないよう、財政健全化に着実かつ積極的に取り組むとともに、限られた財源のなかで一層の選択と集中を全市的に進めることとしています。

こうした考え方のもと、「市民サービスの拡充」と「大阪の改革と成長」という方向性を基本に、幼児教育費の無償化をはじめとした子育て・教育環境の充実や、真に支援が必要な方へのサービス提供など暮らしを守る福祉等の向上、各区による特色ある施策の展開を推進していきます。

あわせて、「大阪の成長戦略」の実行や、うめきた2期区域のまちづくりなど都市インフラの充実、南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえた防災・減災対策、観光産業など成長産業の育成を、府・市一体で展開していきます。

一方、サービス向上や事務処理の効率化、経費の削減や収入の確保など質の高い行財政運営や、官民の最適な役割分担のもと官民連携を推進するなど、新たな価値を生み出す市政改革に取り組むとともに、区長・局長マネジメントのもと、PDCAサイクルを徹底し、歳出・歳入両面にわたっての更なる自律的な改革を行うことにより、行財政改革を強力に推進していきます。

これらの取り組みにより、将来にわたり活気ある豊かな大阪をめざします。

大老連　異動

区老連会長

＜退任＞
平成28年３月31日付
石田政夫（此花区老連会長）、笹井安信（大正区老連会長）、上平繁一（西淀川区老連会長）、楠谷忠正（住之江区老連会長）、村岡郁夫（住吉区老連会長）

＜就任＞
平成28年４月１日付
此花区老連会長　吉井一郎（前此花区老連副会長）、大正区老連会長　野川清美（前大正区老連副会長）、西淀川区老連会長　井上正裕（前西淀川区老連厚生文化部長）、住之江区老連会長　漆谷芳幸（前住之江区老連監事）、住吉区老連会長　平澤徹（前住吉区老連副会長）

人間福祉の再考　幸せを二倍味わう

関西学院大学
人間福祉学部教授
牧里　毎治

私の所属している学部は人間福祉学部なんだが、あらためて人間福祉学あるいは人間福祉研究とはなにかを考えてみると、つかみ所がなくとらえ所がない。人間研究も人間学も人文学のような社会科学のような、なにやら哲学、倫理学などを連想もするが、はたまた文化人類学とかも思い浮かんでくる。もう一つの福祉学のほうは、社会福祉学や福祉社会学など学問らしくはなってきたけれど、社会福祉学、社会福祉研究も広い領域をカバーしているようで狭いし、専門職教育につらなる社会福祉教育に偏り過ぎているようで、狭い範囲に閉じ込められているようにもみえる。けっこう社会福祉をめぐる概念と実態は複雑なのである。最近は家庭福祉や地域福祉にはじまり、市民福祉や住民福祉、そして人類福祉とか世界福祉などの用語を使う人もいて、混乱を来していることもある。

そもそも福祉の「福」も「祉」も幸せを語源としては意味しているようで、倍返しではないが、2倍の幸せを表している。幸福も2倍の「しあわせ」ということになるのだろうけれど、なぜ同義語を重ね合わせて用いる必要があったのだろう。随意随想ということでお許しをいただけるとして珍説を展開すれば、昔の人たちは2倍の2重の幸せを求めたからだ、ということにしておこう。たとえば、「冥福を祈る」と言うけど、これは冥土でも幸せにと哀悼の意を表しているわけで、現世の幸せとあの世の幸せを分けていた証拠ということになる。地獄に落ちないように極楽浄土の暮らしを願ったわけである。もう一つの解釈は、幸せは「仕合わせ」とも書くが、これは仕え合うという意味だから、人々が互いの幸せを重ね合わせよう、つまり支え合うことによって本当の幸福を得られると考えられたのだろうか。確かに自分の幸福だけ考えても幸せ感は得にくいが、他人の幸せを願って、あれこれ世話をすると幸せ感を獲得しやすい。

とは言うものの、福祉の福も祉も「しあわせ」、あるいは幸福の幸も福も「しあわせ」、だと解釈する理由は、「しあわせ」という実体は、複眼的に読み取らなければ、理解できないものなんだということかもしれない。「しあわせ」は二重写しになっていて、片方から眺めているだけでは掴みづらいもので、表から裏から、前から後ろから、下から上から、外から内から観察しないと見えてこない。実は、福祉はダブル・バインドで二重構造からなっている。国家や行政が提供する福祉事業と民間団体が提供する福祉活動が混在していて、二つの支援が交わっているところが最も幸せ、サービス提供する側とサービスを受け取る側の感じ方、認識の仕方が二枚重ねで一致していたら最も幸せ、援助を受け取るだけでなく援助のお返しができる人間関係があるなら、その交わりが幸せ、などなど複眼的に見ていたのではなくて、世間や間柄を指す言葉だったらしい。『人間の学としての倫理学』によれば、「人でわずか五十年」「人間万事塞翁が馬」とか言う場合の人生、つまり「人である間」という意味、あるいは「世間」を意味したそうである。人間存在の日本的解釈をめざした和辻哲郎の意図とは別に、人間がまさに「人の間」人間関係を意味する言葉だったということは興味深い。つまり「人である間」「人の眼をもてると、二重に交差するところに幸福や福祉が存在するのだろう。

実は、人間という言葉も日本の倫理学を体系化したとされる和辻哲郎によると、今日的意味での人間、人類を意味していたのではなくて、世間や間柄を指す言葉だったらしい。『人間の学としての倫理学』によれば、「人間」とは社会のことを意味しているのではないか、というわけである。人間が人間であるのは社会的存在として認知され承認されている必要があるし、また人間が「社会」という装置というか観念を必要として想像し利用しながら生きている。

結局、人間福祉とは世間福祉、人生福祉ということになるわけだけれど、世間が人間関係を意味したとすれば、社会のなかでしか人間になれない人類、社会関係のなかで人間存在を証明しようとした和辻哲郎に乗っかるわけではないが、人が命あるかぎり、未来に夢をもって、現在を暮らし続けることを幸福な人生と呼べるなら、生活者としての視点から社会との関係を認識し、支援と援助をすることを人間福祉と理解することもできる。

社会福祉学の泰斗、岡村重夫は、和辻倫理学を下敷きにしながら主体的存在としての人間個人を社会制度との関係性からその欠損や歪みを是正・調整するところに福祉性という固有性を求めたことで有名だが、生活者として生活困難や生活困窮を捉え、理解するところに人間福祉研究の核があると思える。

命があるだけで人間になれるわけでもなく、人として生きていく、つまり社会人として生活していくことができることが幸福感を醸し出すのだろうし、大きな病気もなくやるべき役割があり、ごく普通に生活できることが幸せなのだろう。

「人である間」つまり人生が「しあわせ」であったと思えるのは、生命、生活、人生のすべてを表すライフ、スーパーマーケットのライフではないけれど、ライフLifeの言葉こそ人間福祉の妙味が隠されているように思う。

大老連の今後の主な事業予定

◇第11回大老連グラウンド・ゴルフ大会
６月３日　大阪城公園太陽の広場

◇近畿ブロック老人クラブリーダー研修会
６月22日～23日　京都東急ホテル

◇大阪市高齢者福祉大会
９月８日　大阪国際交流センター

◇大老連高齢者の主張発表
「月刊大老連」９月号の増ページで全文掲載

◇大老連供養塔法要
９月下旬　高野山奥の院大老連供養塔前

良いものは自分の手でつくる。
予約制
陶芸1日体験教室

①手びねり　通常料金 2,500円（+税）
②絵付け　通常料金 1,500円（+税）
③電動ろくろ　通常料金 3,500円（+税）
※電動ろくろは水、日曜日のみ開催
〈時間〉①10:30～12:00 ②14:00～15:30
※土曜日は16:30～18:00
※作品の仕上がりまで約90日間かかります。郵送ご希望の場合は送料別途。

舞洲陶芸館 MAISHIMA POTTERY MUSEUM
●営業時間／10:00～18:00 ●休館日／月曜日・金曜日
〒554-0042 大阪市此花区北港緑地2丁目2番98号
TEL.06-6463-7282　FAX.06-6463-7283
（株）ビーエスジェイコーポレーション
舞洲陶芸館　http://maishima.com/
〈電車でお越しの場合〉●JRゆめ咲線桜島駅下車、舞洲アクティブバス「ロッジ舞洲前」下車
〈お車でお越しの場合〉●阪神高速5号湾岸線 湾岸舞洲出口（旧北港西出口）より約5分

キャンペーン
50%OFF 陶芸体験コース
【有効期限】2016年6月末迄
※本券1枚につきお一人様のみ有効
※他のサービスとの併用はできません
大老連会員様特別割引

東日本大震災復興支援
東北の神楽
5月28日（土）

【1時の部】
雄勝法印神楽（おがつほういんかぐら）　岩戸開／蛭児
黒森神楽（くろもりかぐら）　榊葉／松迎／大蛇退治

【4時30分の部】
雄勝法印神楽（おがつほういんかぐら）　叢雲／日本武尊
黒森神楽（くろもりかぐら）　山の神／恵比寿舞／権現舞

《出演》
宮城県石巻市　雄勝法印神楽保存会
岩手県宮古市　黒森神楽保存会

＊＊＊＊＊ 好評発売中！ ＊＊＊＊＊
●国立劇場チケットセンター〔10時～6時〕
0570-07-9900
03-3230-3000（一部IP電話等）
http://ticket.ntj.jac.go.jp/
●チケット売場〔10時～6時〕
●入場料金〔各部・税込〕
4,300円　学生 3,000円　セット料金 7,500円
国立文楽劇場
★地下鉄・近鉄〈日本橋〉駅下車⑦号出口徒歩約１分

雄勝法印神楽

黒森神楽